（試験研究課題年次別解説集様式 3-2 号：継続課題用）

サバ類の資源生態研究

（水産資源調査・評価推進委託事業）

（予算区分　受託　研究期間　1995 年度～）

担当：水産・海洋技術研究所　資源海洋科　冨山晧介

【研究の背景とねらい】

2020 年 12 月に施行された新漁業法により、我が国周辺におけるサバ類（マサバ、ゴマサバ）については、水産資源の保存及び管理を適切に行うために最大持続生産量（MSY）に基づく資源評価を行うことが求められています。そのため、関係機関が連携して資源動向を把握するために必要なデータを収集し、漁獲状況の把握や資源評価、漁況予測等を行っています。

【これまでに得られた成果】

（2021 年度の状況）

・水揚量調査、体長測定、年齢査定、標本船調査等を定期的に実施し、水産研究・教育機構や、他都道府県等と連携して資源評価と長期漁況予測を行いました。

・マサバ太平洋系群の資源量は 1970 年代には 400 万トン前後で推移していましたが、1980 年代から減少し、2001 年には 15 万トンまで減少しました。その後 2005 年頃から増加傾向に転じ、2020 年の資源量は 555 万トンと推定されました。

・ゴマサバ太平洋系群の資源量は 1995 年から 2003 年頃まで 30 万トン前後で推移していましたが、2004 年以降増加し、2009 年には 70 万トン以上の高い水準となりました。しかし、2011 年以降減少傾向となり、2020 年の資源量は 11.0 万トンと推定されました。

・2020 年のマサバ親魚量は 106 万トン、ゴマサバ親魚量は 6.0 万トンで共に MSY を実現するための目標親魚量（マサバ：155 万トン、ゴマサバ：15.8 万トン）を下回りました。

・伊豆諸島海域におけるさば類の来遊量や漁場等の情報から 2021 年 7 月と 12 月に長期漁況予測を作成し、県内関係者へ情報提供しました。

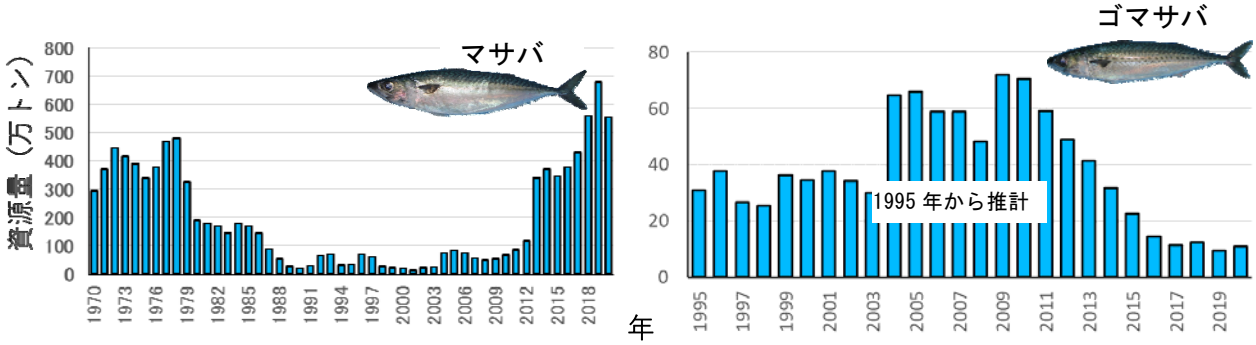

図　サバ類資源量推移

【期待される効果】

・収集した各種データから資源動向を把握することで、資源管理が適切に行われ、資源の持続的利用を図ることができます。

・漁況予測を関係者へ提供することで、漁業者の計画的経営に貢献することができます。

【今後の計画】

・ゴマサバ資源は減少傾向にあるため、引き続き資源動向、漁況を注視していきます。

・マサバ資源は成長・成熟に遅れがみられるため、年齢査定や卵巣組織切片観察等から成熟・産卵状況を把握していきます。

（作成　2022 年 4 月）